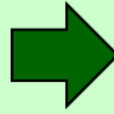


かん水による自給飼料の拡大により肉用牛の規模拡大

経営体の概要

事業実施前

基幹経営：肉用牛 頭数30頭
牧草 250a



事業実施後

基幹経営：肉用牛 頭数350頭
牧草 500a

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は、平成14年に親から経営(肉用牛繁殖)を受け継ぎ就農している。事業により安定したかん水が可能となり、自給飼料(ギニアグラス)の生産量の増加による経営の安定と規模拡大を図っている。

飼養頭数は、就農時点から約12倍の350頭に拡大、県畜産共進会では優秀賞を受賞するなど、高い評価を得ている。また、農業次世代人材投資事業の研修機関として認定され新規就農者を受け入れるほか、農業大学校の実習生の受け入れなど担い手の育成にも取り組んでいる。

営農改善のポイント

①単収の向上

宮古島における飼料作物の年間収穫回数は、通常5回であるが、適期適切なかん水が可能となり、6回の収穫が可能となった。また、10a当たりの収量も増加(2.5t→3.0t)しており、自給飼料の購入経費が削減され、安定した経営と規模拡大を実現している。

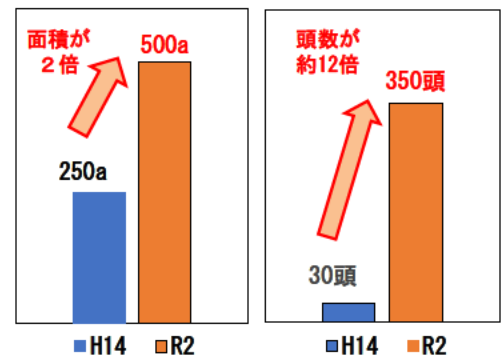
②規模拡大

自給飼料の確保により、就農時の飼養頭数は30頭であったが、現在は約12倍の350頭まで規模を拡大している。今後は、更なる飼料作物の面積拡大と飼養頭数を拡大する意向である。

③担い手の育成について

沖縄県本土や宮古島市から担い手の受け入れを行っており、近年では農業次世代人材投資事業による新規就農者2名と農業大学校から4名の受け入れを行っている。

飼料作物の面積と飼養頭数の変化
(作付面積) (飼養頭数)



飼料作物の栽培状況
(ロールベールラップサイロ)

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：宮古島市

受益面積：9,156ha

事業期間：S62～H12年度、H21年度～

事業目的：畑地かんがい、用水改良

主要工事：地下ダム2箇所

副貯水池1箇所

揚水機場1箇所

用水路 55km

位置図(沖縄県)



<局問い合わせ先>

沖縄総合事務局
農村振興課振興課
企画指導官(経済資源)
電話：098-866-1652

(令和2年調査時点)